

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際純粋・応用物理学連合
	英	International Union of Pure and Applied Physics (略称 IUPAP)
	団体 HP (URL)	http://iupap.org (日本学術会議が加盟していることの記載 有)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		<p>1) 新たな発見による社会への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年12月、IUPAP/IUPAC (国際化学連合) 合同作業班により4つの新元素が認定され、113番元素には理化学研究所のグループが命名権を与えられたことも大きく報道され、社会的注目を集めた。これが制定理由の一つとなり、IUPAC IUPAPなどの提案によって、2019年が国際周期表年と定められた。 ・2022年を国際発展のための基礎科学年として提案すべく他の国際団体とユネスコへの提案を準備中である。 ・2016年2月に発見が報告された重力波の初の直接検出は2017年にはノーベル物理学賞が、実験チームの3名に与えられた。重力波観測による天文学の始まりであるといえ、観測を開始した日本のKAGRA実験も含め、今後が期待される。 ・IUPAPは国際単位系に助言を与える立場にある。今年11月に最後の原器であるキログラム原器を廃止して、プランク定数を確定値とし、それを用いてキログラムを定義する、新しい単位系が制定されることとなった。 <p>2) 物理学の普及活動</p> <p>2018年12月にIUPAP分科会で、新国際単位系の定義についてのシンポジウムを開催した。200名近い参加登録があり、関心が高い。また、2019年には国際周期表年に関するオープニングシンポジウムを物理学委員会と化学員会の元に開催した。</p>
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		<ul style="list-style-type: none"> ・Working Group 12 “Energy” ではエネルギー問題に対する現状をレビューし、エネルギーの供給、運搬や消費方法について、物理学者や政策立案者に報告している。 ・Working group 5は物理分野における男女共同参画を議論し、2017年には開催会議のプレナリー講演での女性比率に下限を設定することを提案するなど、ジェンダーバイアスで女性比率が下がりがちな物理の状況に歯止めをかけようとしている。またISCと協調してジェンダーについてのサーベイを実施中である。 ・新たに Working group for Industry を立ち上げ、産業との関係を強化するための提言を発出しようとしている。 ・Commission 13 : Physics for Development は1981年から活

様式第 2 (第12条関係)

	<p>動し、物理学者間の情報交換の促進などを通じて発展途上国の物理学振興に寄与している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WG 13 は 2014 年に新たに立ち上げられた、グループで重力定数の測定について、新しい手法を立ち上げるための検討を行っている。 ・WG 14 では、多くの応用を有する加速器物理の将来を検討するために 2015 年から活動を行なっている。
<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は 1922 年の IUPAP 発足時からの創立メンバーである。 ・2008～2011 まで潮田資勝氏が会長を務め、2008 年にはつくば市で総会が開催された。会長以外の役員や Commission メンバーにも、東俊行氏が 2014～2017 の副会長を務めるなど、多くの日本人研究者が選出されて活動している。 ・日本学術会議の物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会として、これらの役員や Commission メンバーが集まり、IUPAP 次期役員や委員の推薦を取りまとめるとともに、情報交換を行う場として、交流が図られている。 ・2018 年は IUPAP の国際会議が国内において 3 件行われるなど、日本の学術活動への貢献は大きい。
<p>加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物理学・総合工学分野の主要な国際会議は IUPAP のスポンサーを受けており、日本学術会議との密接な連携が取れることで、先導的研究者を含め多くの研究者を集め充実した会議を開催することができる。これらの会議には日本物理学会や総合工学分野の学会の多くの会員が参加し、学術の進歩に貢献している。2018 年だけでも日本では 3 件の IUPAP 後援の国際会議が東京、埼玉、名古屋で開催されており、日本の研究者が参加しやすく国際的な発表の場が増えて、学術研究や交流に貢献するのみならず、開催地に経済的効果をもたらし、来日した外国人研究者に日本文化に触れる機会も提供している。 ・International Year of Light など、IUPAP が主導・賛同する普及活動では、様々なイベントなどを通して、国民に物理学や総合工学への理解を浸透させる努力が図られている。 ・物理定数や単位の国際標準は IUPAP Commission 2 で審議され決定されている。これらは国民生活にとって基本的で重要な指標である。 ・日本学術会議が事務局を務めるアジア学術会議が ICSU の地域準会員の資格を得るために必要であった「Union 会員の賛同」(3 Unions から必要) に関し、IUPAP 分科会が仲介して IUPAP 会長がサポートレターを送った。このことは IUPAP が日本学術会議の世界的存在意義を支えている Union であることを示している。 ・Member 国からの分担金は、事務局や役員会議の費用を除き、上述のような国際会議の助成として還元されている。
<p>その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボルツマンメダルなど、多くの国際賞は IUPAP Commission に設けられた委員会では審議され授与されている。日本からも

様式第 2 (第12条関係)

<p>関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など</p>	<p>受賞者が出ている。 ・Commission 毎に IUPAP Young Science Prize を設けて若手研究者を表彰し、育成に貢献している。日本からは 2018 年に 1 名 (関真一郎氏)、2015 年に 1 名 (林将光氏)、2013 年に 3 名、2012 年と 2011 年に各 1 名が受賞している。 IUPAP では、男女共同参画に力を入れており、前回総会に置いて、主催会議における女性の講演比率を一定以上に保つよう要請するとともに、プレナリー講演にダイバーシティに関わるセッションを必ず入れることを決議した。これは今年度より実行されている。また、若手の懸賞に力を入れている。</p>
---	--

2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

<p>総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)</p>	<p>2008 年につくば市で総会を開催して以後、直近の開催予定はないが、役員会の招致については検討中である。</p>
<p>日本人の役員立候補等の予定について</p>	<p>2008～2011 まで潮田資勝氏が会長を務め、2017 年まで東氏が副会長を勤めた。2017 年の改選時には C2～C20 まで多くの Commission に IUPAP 分科会から日本人メンバーを推薦し、15 名が選出され、委員会副委員長 2 名、書記 3 名が日本人であった。次回総会は 2020 年の予定である。</p>
<p>現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて</p>	<p>2018 年には C4, C11, C12, WG1, WG9, WG10 合同のニュートリノパネルが設置され、ニュートリノに関する様々なプログラムの将来計画を議論することになった。梶田氏が共同議長に選出された。</p>

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)

<p>総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去 5 年間及び今後予定されているもの)</p>	<p>総会開催状況</p>	<p>総会は 3 年に一度開催されている。次回の開催地は調整中である。 2017 年 (開催地: ブラジル)、2014 年 (開催地: シンガポール)、2011 年 (開催地: ロンドン)</p>
	<p>理事会・役員会等開催状況</p>	<p>2018 年 (開催地: シンガポール)、2017 年 (開催地: サンパウロ)、2016 年 (開催地: 台湾)、2015 年 (開催地: トリエステ)、2014 年 (開催地: シンガポール)、2013 年 (開催地: ジュネーブ)</p>
	<p>各種委員会開催状況</p>	<p>2018 年 (C4 名古屋)、 2018 年 (C5 ゲーテンベルグ)、 2018 年 (C8 モントペリエ)、 2018 年 (C15I 開催地: バルセロナ)、 2018 年 (C13 開催地: トリエステ)、 2018 年 (C12 開催地: ボローニャ)、 2018 年 (C11 開催地: ソウル) 他多数</p>

様式第 2 (第12条関係)

	研究集会・会議等開催状況	<p>研究集会は委員会ごとに年に数回開催されており、2018 年は日本でそのうち 3 件が開催される。</p> <p>2018 年 (C2/PSAS2018 開催地：ウイーン)、 2018 年 (C2/CPEM 2018 開催地：パリ)、 2018 年 (C3/UCGP2018 開催地：ブリストル) 2018 年 (C4 ISVHECRI2018 開催地：名古屋)、 2018 年 (C5/QFS2018 開催地：東京) 2018 年 (C8/ICSNN 開催地：マドリッド)、 2018 年 (C9/ICM2018 開催地：クラコウ) 2018 年 (C10/M2S-2018 開催地：北京)、 2018 年 (C11/ICHEP2018 開催地：ソウル)、 2018 年 (C12/NN2018 開催地：埼玉) 12 月開催予定 2018 年 (C13/SFD2018 開催地 クイニョン)、 2018 年 (C14/ICPE2018 開催地:ヨハネスブルグ)、 2018 年 (C15/ICAP 2018 開催地：バルセロナ)、 2018 年 (C16/ICPP 2018 開催地:バンクーバー)、 2018 年 (C18/ICMP 2018 開催地:モントリオール)、 2018 年 (C20/CCP 2018 開催地:カリフォルニア)、 (他多数)</p>																															
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	<p>2017 年の IUPAP 総会には日本から 4 名が参加した。C5 の主催で開催された 2017 年の LT(International Conference on Low Temperature Physics : 国際低温物理学会議)28 (Gothenberg) では日本から、270 名の参加があるなど、いずれも多く日本人が参加している。また 2020 年に開催予定の LT 29 は札幌で開催され 1200 人の参加者を予定している。</p>																																
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去 5 年)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>役職名</th> <th>役職就任期間</th> <th>氏名</th> <th>会員、連携会員の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>副会長</td> <td>2014～2017</td> <td>東 俊行</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C14 委員長</td> <td>2014～2017</td> <td>新田英雄</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本代表</td> <td>2018～</td> <td>野尻美保子</td> <td>(24 期) 会員</td> </tr> <tr> <td>日本代表</td> <td>2014～2017</td> <td>森正樹</td> <td>(23 期) 連携</td> </tr> <tr> <td>会長</td> <td>2011～2014</td> <td>潮田資勝</td> <td>(22 期) 連携</td> </tr> <tr> <td>副会長</td> <td>2011～2014</td> <td>河野公俊</td> <td>(22 期) 連携</td> </tr> <tr> <td>C6 C10, C11, C12 委員長</td> <td>2011～2014</td> <td>吉川研一、藤井保彦、相原博昭、酒井英行</td> <td>(22 期) 会員・連携 相原は会員、他は連携会員</td> </tr> </tbody> </table>	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別	副会長	2014～2017	東 俊行		C14 委員長	2014～2017	新田英雄		日本代表	2018～	野尻美保子	(24 期) 会員	日本代表	2014～2017	森正樹	(23 期) 連携	会長	2011～2014	潮田資勝	(22 期) 連携	副会長	2011～2014	河野公俊	(22 期) 連携	C6 C10, C11, C12 委員長	2011～2014	吉川研一、藤井保彦、相原博昭、酒井英行	(22 期) 会員・連携 相原は会員、他は連携会員
役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別																														
副会長	2014～2017	東 俊行																															
C14 委員長	2014～2017	新田英雄																															
日本代表	2018～	野尻美保子	(24 期) 会員																														
日本代表	2014～2017	森正樹	(23 期) 連携																														
会長	2011～2014	潮田資勝	(22 期) 連携																														
副会長	2011～2014	河野公俊	(22 期) 連携																														
C6 C10, C11, C12 委員長	2011～2014	吉川研一、藤井保彦、相原博昭、酒井英行	(22 期) 会員・連携 相原は会員、他は連携会員																														
出版物	<p>1 定期的 (年 3 回) 主な出版物名 IUPAP news letters</p> <p>2 不定期 () 主な出版物名</p>																																
<p>活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (http://iupap.org/newsletter/)</p>																																	

様式第2 (第12条関係)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	日本学術会議物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会
	委員長名	野尻美保子
	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) 第24期第1回 2018年1月29日 15時から17時 1. 委員長と副委員長の決定 2. IUPAP 活動についての全体説明 3. IUPAP 総会についての報告 4. 国際周期表年についての対応検討 第2回 2018年6月7日 ※メール審議 公開シンポジウム「新しい国際単位系 (SI) 重さ、電気、温度、そして時間の計測と私たちの暮らし」を IUPAP 委員会として承認
内規第3 (国際学術団体の要件関係)	国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である <input checked="" type="radio"/> 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://iupap.org/about-us/)	
	各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) <input checked="" type="radio"/> 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://www.)	
	下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印)	
	<input checked="" type="radio"/> ア 個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの	
	イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一的かつ世界的な組織を有するもの	
	ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの	
	エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの	
10 ヶ国を超える各国代表会員が加入している <input checked="" type="radio"/> 1. 該当する 2. 該当しない		
加入国数及び 主要な各国代表 会員を 10 記載	(56 ヶ国) ・各国代表会員名/国名 Prof. Robert Sporcken/ベルギー Prof. Marcos Assuncao Pimenta /ブラジル	

様式第2 (第12条関係)

		Dr. Jens Dilling/カナダ Dr Shih Chang Lee/ 台北 Prof Li Lu/ 中華人民共和国 Dr Kristoffer Haldrup/デンマーク Prof Stephan Fauve/フランス Dr. Bernhard Nunner/ドイツ Mr. S P Mishra/インド Dr Ana Ferreras/アメリカ合衆国
--	--	--